

「新渡戸カレッジ」開校

新渡戸カレッジは、札幌農学校を卒業し、国際連盟事務次長を務める等、世界で活躍した新渡戸稲造にちなんで名付けられたもので、その精神を受け継ぎ将来、国際社会で活躍するグローバルリーダーの育成を目指し、平成25年4月に開校しました。

本カレッジは、学部教育と並行して、豊かな人間性・国際性を育むために取り入れられた各種教育を実践する特別教育プログラムです。本カレッジには、カレッジ生の良き理解者、助言者、教育者として自立的な成長を見守り・支える役割の新渡戸カレッジフェローの制度もあります。

新渡戸カレッジには下記の5つの特徴があります。

1. 大学の教育（学部教育）を受けながら、新渡戸カリキュラムの授業科目を履修し、4年間で様々な知識や経験が修得できます。（修了者には修了証が授与されます）。
2. 北海道大学12学部のすべての学生を対象とした横断的教育カリキュラムです（定員200名）。
3. 原則として1 Semester（半年）以上の海外留学を行います。
4. 留学支援英語、英語による国際交流科目・学部専門科目により、実践的な英語力が身につきます。
5. 様々な国・地域からの留学生とともに学ぶ多文化交流科目で異文化理解力が深まります。

本カレッジでの学修を通して、幅広い知識にとどまらず、品位ある自律的な個人の確立、日本人としてのアイデンティティの確立、同時に国際性とリーダーシップの醸成を目指した教育が行われます。

国際コミュニケーション力の育成等に関する教育プログラムである「新渡戸カレッジ」は、平成24年度文部科学省グローバル人材育成推進事業に採択された事業であり、第1期生には全学部の新入生（学部1年生）から397人の入学希望者があり、語学試験で選抜された129人が入校しました。卒業までに、留学支援英語、多文化交流科目、フィールド型演習、海外留学など15単位以上の授業科目の修得を目指すこととなります。

皆様には、新渡戸カレッジに関心を持っていただき、カレッジの教育を支援いただければ、幸いです。



開校式における校長(総長)挨拶



フェローとカレッジ生との交流会

ASEAN諸国との大学院共同教育PAREプログラム

本学、インドネシア3大学、タイ王国3大学の計7大学との間において、平成24年度に採択された「大学の世界展開力強化事業～ASEAN諸国等との大学間交流形成支援～」の共同プログラムを開催し、ASEAN6大学院から18名の留学生を受け入れました。

本事業は、世界に雄飛する日本として誇れる人材の育成を目指し、国際的な枠組みで、単位の相互認定や成績管理等の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う東南アジア諸国連合（ASEAN）の大学等との大学間交流の形成を目的としています。

具体的には、7大学がASEANの人口・活動・資源・環境システム（PARE：Populations-Activities-Resources-Environments）の負の連環を正に転換するために、4つの力（フィールド研究力、多様性容認力、開拓力、課題解決力）を有する「フロンティア人材」を育成するための新たな国際連携教育システムを構築します。また、課題解決の実践訓練を重視した教育を展開し、ASEANおよび日本でのサマースクールなど、多分野の人々が協働するための力を育成します。

本構想は、「持続可能な開発」国際戦略を掲げて、分野横断的な教育・研究連携に力を入れてきた北海道大学が、学問分野間の教育の質保証システムを均等性のあるものへと整備しつつ、ASEANの主要6大学との教育連携システムの構築を図るといった特徴を持っています。



北海道で行われたサマースクールの様子